

## 5. 今月のトピックス「ブドウ<sup>おそぐされ</sup>晩腐病について

### ◆晩腐病とは◆

晩腐病は図1のように果粒が収穫期になって腐るように発病し、ミイラのような難防除病害の1つです。

### ◆感染のしくみ◆

病原菌は、結果母枝・巻きひげ・果梗の切り残しなどの組織内で菌糸の形態で越冬します。平均気温が15℃以上になり降雨で枝が十分にぬれると孢子形成が始まり、孢子の形成・飛散は梅雨期に最も盛んとなります。越冬病原菌から果房への第一次伝染は6月初旬から7月中旬頃で、雨滴によって飛沫感染します。

感染した果房は長い潜伏期間を経て成熟期に発病し、第二次伝染を引き起こした後、結果母枝・巻きひげ・果梗の切り残しなどで越冬し、翌年の感染源になります。



図1 晩腐病による発病果

### ◆防除のポイントと注意事項◆

果実に酸が多く pH が低いと病斑は形成しにくいいため、幼果期に感染するとほとんどは潜伏します。長い潜伏期間を経て発病するので、成熟期に発病を見た時には既に遅く、第一次伝染を防止することが最も重要です。また、薬剤だけでは防ぎきれないので、耕種的防除と組み合わせる必要があります。

〈耕種的防除〉

- 1) 剪定時に、果梗の取り残しや巻きひげをとりましょう。
- 2) 降雨による果実感染を防止するため、袋かけは6月下旬～7月上旬までに終了しましょう。

〈薬剤防除〉

- 1) 休眠期散布は、動噴の圧力を下げ、ていねいに散布しましょう。
- 2) 果粒を汚すことがあるので、薬剤の選択や時期に注意しましょう。

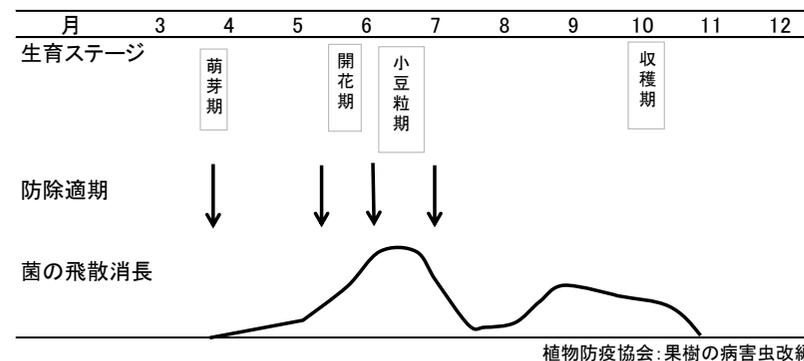


図2 晩腐病の発生消長と主要防除時期